

# 次世代AI時代のソフトウェア 崩壊か、進化か

## 次世代AI株式戦略ファンド

追加型投信/内外/株式



- ▶ 平素は『次世代AI株式戦略ファンド』(以下、当ファンド)に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
- ▶ 本レポートでは、当ファンドの足元の運用状況についてご紹介します。

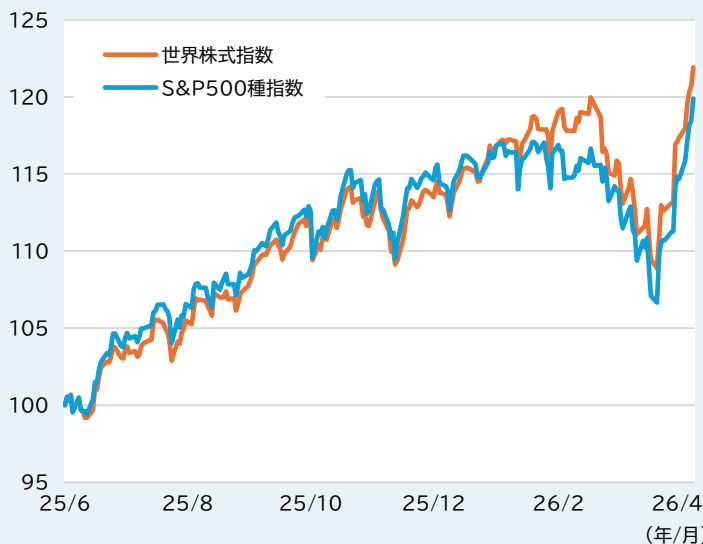
### 足元の投資環境

3月の世界株式市場は下落し、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(世界株式指数)は米ドルベースで約7.1%下落しました。中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇懸念から、インフレ再加速への警戒が強まり、これまで利下げを進めてきた中央銀行の政策運営に対する不透明感が高まりました。これにより市場全体でリスク回避姿勢が強まりました。

しかし4月に入ると、米国とイランの一時停戦合意を受けてホルムズ海峡を巡る緊張が一時的にやわらぎ、原油価格の下落とともにリスク回避姿勢が弱まり、株価は上昇に転じました。

AI関連分野では、AIエージェントの普及が新たな成長ドライバーとして台頭しています。米国のAI開発企業である「アンソロピック」が提供する生成AI「Claude(クロード)」などの進展により、企業向けAI活用が急速に拡大し、ビジネス用途でのAI需要が本格的に立ち上がりつつあります。この動きにより、AIは従来よりも計算負荷が高まり、画像処理半導体(GPU)やデータセンターなどのインフラ需要が一段と加速しています。

図表1 世界株式指数とS&P500種指数の推移  
(期間:2025/6/9~2026/4/17、日次)



※世界株式指数:MSCI ACWI Index  
※2025年6月9日(当ファンド設定日)を100として指数化(米ドルベース、配当込み)

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

### 当ファンドの運用状況

3月の基準価額は8.9%下落しました。当月は半導体・中国関連銘柄が下落要因となった一方、AIインフラ関連の一部銘柄は堅調でした。

利益率のピークが懸念された半導体テスト装置の世界的メーカーである日本の「アドバンテスト」や、世界的なメモリメーカーである韓国の「SKハイニックス」、主力小売事業の不振が重石となった巨大Eコマース企業である中国の「アリババ」などの株価下落が、基準価額にマイナスに影響しました。

一方、中央演算処理装置(CPU)の事業拡大への期待が高まった英国の半導体設計企業の「アーム・ホールディングス」や、データセンター需要の拡大が材料視されたネットワーク測定機器の「ヴィアヴィ・ソリューションズ」、ソフトウェア開発の加速が評価された「Jフログ」などの株価は上昇し、基準価額を下支えしました。

図表2 当ファンドの基準価額の推移  
(期間:2025/6/9~2026/4/17、日次)



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後

## 次世代AI時代のソフトウェア 崩壊か、進化か

2026年に入り、ソフトウェアセクターに属する企業の株価は大きく調整し、当ファンドのパフォーマンスにおいても最大の下押し要因となりました。市場では「AIの進化によりソフトウェア企業は構造的に脅かされるのではないか」という見方が広がっています。では、ソフトウェア企業は本当に“崩壊”に向かっているのでしょうか。

### 崩壊ではなく「進化」、ただし選別は起きる

現在起きているのはソフトウェア企業の崩壊ではなく、AIによるソフトウェアの進化と再編のプロセスだと考えています。今回の株価調整は、ファンダメンタルズの悪化ではなく、バリュエーションの調整であり、実際には多くの企業で売上は維持、あるいは加速している状況が確認されています。

### なぜ「崩壊」が語られているのか

背景にはAIの急速な進化があります。生成AIの高度化、エージェントAIの登場により、“AIがソフトウェアを代替するのではないか”、“既存のSaaSモデルは成立しなくなるのではないか”という懸念が広がりました。その結果、ソフトウェア銘柄は一律に評価を引き下げられる無差別的な売りを浴びる局面となっています。

### 実際に起きていること…ソフトウェアの二極化

AIはソフトウェアを一律に弱めるのではなく、企業間の差を拡大させています。

### すでに見え始めている変化

実際に一部のソフトウェア企業では、AI活用による売上成長の加速、顧客価値の向上が確認されています。つまり、AIは脅威ではなく、ソフトウェアの成長ドライバーとして機能し始めていると考えられます。

図表3 ソフトウェア(SaaS)内での差別化

これからも進化する企業	崩壊リスクが高い企業
 AIが必要とする独自データを保有している企業	 AI対応が遅れている企業 開発スピードが下がり競争優位が崩れる
 提供するサービスが顧客の業務プロセスに深く組み込まれている企業	 シート課金モデルに依存している企業 AIでユーザー数が減り、売り上げが伸びにくい
 AIでサービス価値が向上するプラットフォーム型ビジネス企業	 スイッチングコストに頼ったビジネスモデル AIで乗り換えが容易になり顧客維持が難しくなる
 成果ベースの課金に移行できる企業	
 AIで実際に売り上げ成長を加速している企業	

(出所) BNPパリバ・アセットマネジメント

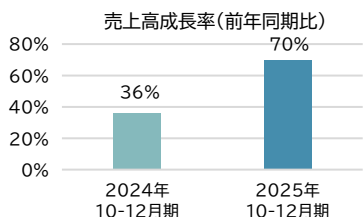
NEXT GENERATION

個別銘柄紹介

 **パランティア・テクノロジーズ** (情報技術)



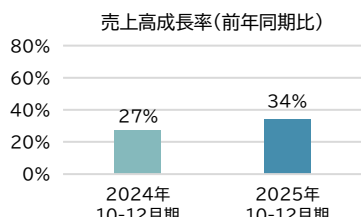
- データ統合とAIを組み合わせ、企業や政府の意思決定を支援するソフトウェア企業。AIを分析にとどめず、業務に組み込むことで、次世代AIの活用をリードする次世代イノベーター企業。



 **クラウドフレア** (情報技術)



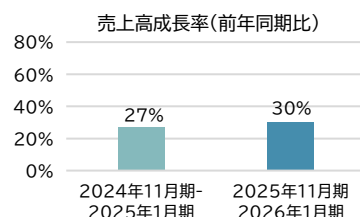
- セキュリティや配信を支えるグローバルネットワークを基盤とするソフトウェア企業。次世代AI利用の効率化を担い、AIエコシステム全体のボトルネック解消に重要な役割を果たしている。



 **スノーflake** (情報技術)



- 企業データをクラウド上で統合・活用するデータプラットフォームを提供するソフトウェア企業。AIに不可欠なデータ基盤を担い、AI価値の創出を支える中核プレイヤー。



※写真はイメージです。

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したものではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

今後の見通しと運用方針

次世代AIを取り巻く環境は、急速に進化を続けています。ハイパースケーラー(大規模クラウド事業者)による設備投資計画は引き続き拡大しています。2026年の投資成長率も従来想定を上回る水準へと上方修正されています。一方で、こうした大規模投資はフリーキャッシュフローへの圧力となり、株価の上値を抑える要因にもなっています。AI需要の拡大により、メモリや電力、ネットワークといったインフラ面の制約が顕在化しており、課題解決に貢献できる企業が選別的に評価されています。一方、ソフトウェア分野は依然として不安定な状況が続いていますが、市場が懸念する「AI=ソフトウェアの脅威」という見方とは異なり、実際には「AI=ソフトウェアの進化」だと考えられます。この認識のギャップにより、本来は高い成長力を備えた企業が、割安な水準にとどまっているケースが生じています。

当ファンドでは、AIインフラとAIイノベーターの両方に投資することで次世代AIの価値創出全体を捉える戦略です。短期的にはソフトウェア分野の調整がパフォーマンスの重石となりましたが、長期的にはインフラの投資価値は、イノベーター企業の成長を通じて実現されると考えています。ハイパースケーラーを中心とした次世代AIインフラへの投資は、2026年も引き続き大規模な資本投入が見込まれ、力強い成長が期待されています。現在は、インフラ主導から、実利用・収益化の段階へと移行する過渡期にあります。今後はAIエージェントの普及、AIを活用した需要予測の拡大、業務の自動化といった動きが広がることで、ソフトウェア企業の収益成長が本格化する局面に入ると見込まれます。ソフトウェア市場は崩壊するものではありません。AIを取り込み進化できる企業が選別され、成長していく時代に入っています。現在はその転換期にあり、市場の不安心理によって企業価値の評価が歪みやすい局面ですが、こうした環境こそが、次の成長企業に投資できる重要なタイミングであると捉えています。

# 販売会社一覧 2026年4月23日現在



受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。  
 なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
<b>(金融商品取引業者)</b>					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
三津井証券株式会社	北陸財務局長(金商)第14号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

委託会社  
お問合わせ先

電話番号  
03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)

ホームページ  
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

# 次世代AI株式戦略ファンドに関する留意事項



## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「特定の業種・テーマへの集中投資に係るリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。その他の変動要因は、「カントリーリスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

### 留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。

## お客様にご負担いただく費用

- 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
  - 換金手数料：ありません。
  - 信託財産留保額：ありません。
  - 運用管理費用（信託報酬）：純資産総額×年率1.2925%（税抜1.175%）
  - 運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担：純資産総額×年率1.826%（税抜1.66%）程度  
※実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
  - その他費用・手数料：監査費用〔純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）〕  
有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

### <本資料で使用しているインデックス>

- MSCI ACWI IndexはMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。



商号等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号  
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みには、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。